

研究課題名：韓国の日韓安全保障協力を巡る政策過程

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程 2 年
学籍番号：81025665、渡邊祐華

1. 研究概要

【修士論文題目】

韓国の日韓安全保障協力をめぐる政策過程—ACSA と GSOMIA の締結交渉を事例として—

①研究の目的

本研究の目的は、2011 年 1 月に行われた日韓防衛相会談で決定された①物品役務相互提供協定（ACSA）と②軍事情報包括保護協定（GSOMIA）の締結交渉における韓国側の政策過程に焦点をあて、締結交渉が如何なる経緯をたどり挫折に至ったのかを韓国政治の力学の中で描き、韓国が日本との安全保障協力を容易に推進できない理由を構造的に明らかにすること、そして、日韓間初の軍事協定になるはずであった ACSA と GSOMIA の締結交渉が挫折した経緯から、韓国政治における日韓安全保障協力の位置付けを考察することである。

②リサーチ・クエスチョン

ACSA と GSOMIA の締結交渉は、外交・防衛当局者間では合意がなされたのにもかかわらず、どのようなプロセスを辿り挫折に至ったのか。

③分析の視角

韓国の国内政策過程に注目し、調印を推進したアクターと反対したアクターを整理し、実務者レベルでの合意が、国内政策過程の中でいかに覆されたのかを明らかにする。

2. 活動内容

①韓国でのフィールドワーク（2013 年 6 月 4 日～8 日）

・インタビュー調査

2013 年 6 月 5 日、元大統領府対外戦略企画官、金泰孝成均館大学准教授

2013 年 6 月 6 日、韓国外交通商部政策担当者

・韓国語文献の収集

②国内での研究活動

・インタビュー調査

2013年6月13日、韓国国防部政策担当者（東京）

2013年6月14日、外務省政策担当者2名（東京）

・資料収集

3. 研究成果

GSOMIAは行政協定であるため、国会の同意を得る必要がある事案ではなく、相手国との関連手続きが完了しない状態では、互いに決定内容を公開しないという外交的な慣例に従い処理された。本来ならば問題にならない方式で、政府はGSOMIAの署名手続きを処理したにもかかわらず、野党の批判によって問題が政治化し、反対世論が広まった。当初は賛成していた与党までもが反対を表明したことで、李明博大統領は、GSOMIA締結で得られる利益よりも、2012年12月に控える大統領選で与党（セヌリ党）候補が勝利することを優先せざるを得なくなり、GSOMIAの署名を延期したということが本研究により明らかとなった。

今回の事例研究から、日韓安全保障協力を進展させる際、政党と世論の支持が得られなかった場合、政策的な合理性よりも、政治的な配慮が大統領によって優先されることが確認された。この現象は、韓国政治の制度的特質に基づくものであるため、今後も繰り返される可能性が高いと言える。これが本研究の結論である。

4. おわりに

貴基金のご支援により、研究活動をより有意義なものにすることができました。この度はご支援頂き、誠にありがとうございました。